“がけやま”からのつぶやき（2）

ー巣ごもりの中で博物館から心の栄養を…お届けしますー

前号からはじまりました「“がけやま”からのつぶやき」第２回目になります。博物館で開催した展示会の思い出ばなしをつぶやいて、コロナ禍でのちょっとした気分転換にお読みいただければ幸いと思っております。

博物館での展示会は、平成９年の開館以来42回を数えます。紙面の関係上、全てをご紹介することはできませんので、今回は、過去５年間を振り返って、その内２本の展示会を取り上げたいと思います。

回目	開催年度	展示会タイトル
42	令和２年度	近代を生きた土佐派絵師　栗田真秀
41		古文書から歴史をよみとくー江戸時代の朝日ー
40	平成31年度（令和元年度）	時を越え、まちを越え、ここに集結！　朝日みりょく発見！伊勢の地に集うー朝日交流展
39	平成30年度	鈴木のりたけ原画展
38		再考！萬古焼
37	平成29年度	美し国と食の文化史
36		朝日のいにしえー縄生廃寺ー
35	平成28年度	むかしむかしー歴史と伝説ー
34		歴史にみる自己ー表現のかたちー

【過去５年間の展示会（令和２年度～平成28年度分）】

この中で、やはり語らなければならない展示会の一つは、昨年度の「古文書から歴史をよみとくー江戸時代の朝日ー」です。この展示会は、朝日町に残っていた江戸時代の古文書を中心に展示を行いました（ちなみに、古文書とは「こぶんしょ」ではなく、「こもんじょ」と読みます。これが読めると歴史家への第一歩です）。古文書は和紙に墨を使い、くずし字によって記されている歴史資料です。

歴史というものは、私たちの人生と同じで、日常の積み重ねの連続です。それが長い時間をかけて積み上げられ歴史を紡いでいくのです。ですので、この展示会はちょっと地味な印象を持たれたかもしれません。もちろん、足利義満や徳川家康といった歴史上の著名人に関する古文書も他館より借用できましたので、そういった意味で本物をみなさまにご覧いただける機会となったかと思います。しかし、実はこの展示会の意味は別のところにあると考えております。それは何かと申しますと…。

【朝日町に残る江戸時代の古文書】
難しそうですが、書かれているのは日本語なのです

博物館では、毎年初学者向けの古文書学習会を実施しております。この展示会では、参加者の方々と少しずつ読み解いた古文書を多く展示しました。展示した古文書は、江戸時代の朝日町に住んでいた人々の日常生活を伝えるもので、歴史的な大発見といった目玉的なものではありませんでしたが、町民のみなさんと一緒に解き明かした成果をご紹介できたのではないかと考えております。

この古文書学習会は15年続いております…、つまり、この展示会は約15年の歳月をかけてやっと開催できたものでした。これまで古文書学習会にご参加いただいた方に支えられた展示会でした。感謝申し上げます。

次にもう一つ展示会のご紹介を…と思いましたが、残念ながら紙面が尽きようとしています。そのため、このつづきは次回につぶやきます。

前号で、この記事名“がけやま”の由来をご説明しました。実は、この“がけやま”、パクリです。この“がけやま”には、その名を冠した偉大な先輩がいます。それは、図書館で活動しているボランティアグループ「がけやま」さんです。「がけやま」さんは、開館以来、本や絵本を通じて、子ども向けの読み聞かせ活動を、図書館だけでなく小学校などでも行っています。

読書は、言葉を学び、感性を磨き、想像力や表現力を豊かにし、物事を理解する能力の向上などといった効果があるといわれます。「がけやま」さんが子どもたちへ読み聞かせをしていると、子どもがじっと聞き入ったり、読んでいる人の顔をじっと見つめていたり、笑顔があったり、といろいろな姿があります。その様子を見て思うのは、つきつめれば“本をよむ”ことは“心の豊かさ”に通じるものだと改めて感じます。この「がけやま」さんの活動は、すぐに成果として目に見えにくいかもしれません。しかし、長い人生、成長の中においては、気が付かないだけで大きな足跡を残していると思います。

そういった意味でも、「がけやま」さんは着実に地域に根付いた活動を続けられている、それも地道に。だからこそ、この偉大な先輩にリスペクトとともに感謝の気持ちを常に抱いています。（つづく）